

# NEET問題をどう捉えるか

労働政策研究・研修機構

小杉礼子

# イギリスのNEET

◆ Not in Education, Employment or Training

- ◆ 学校にも、雇用にも、職業訓練にも参加していない若者 = 16～18歳人口の9% (161,000人) を占める。その後も訓練に参加せず、失業や社会福祉給付受給者、薬物乱用者や刑法犯、ホームレスになる可能性が低くない。社会的コストとなる可能性大。

The Social Exclusion Unit 1999

*“Bridging the Gap—New Opportunities for 16-18year olds not in education, employment or training”*

# 日本のニートは？

## < 日本での議論へのインプリケーション >

学校や企業に所属するなどのしっかりした社会との関係を持っていないために生ずる将来の可能性の閉塞状態は問題

そうした状態の人がハローワークなどの政策的支援を十分活用していないとしたら問題

そのまま放置すると、社会にとってコストになる可能性がある  
という視点から対策

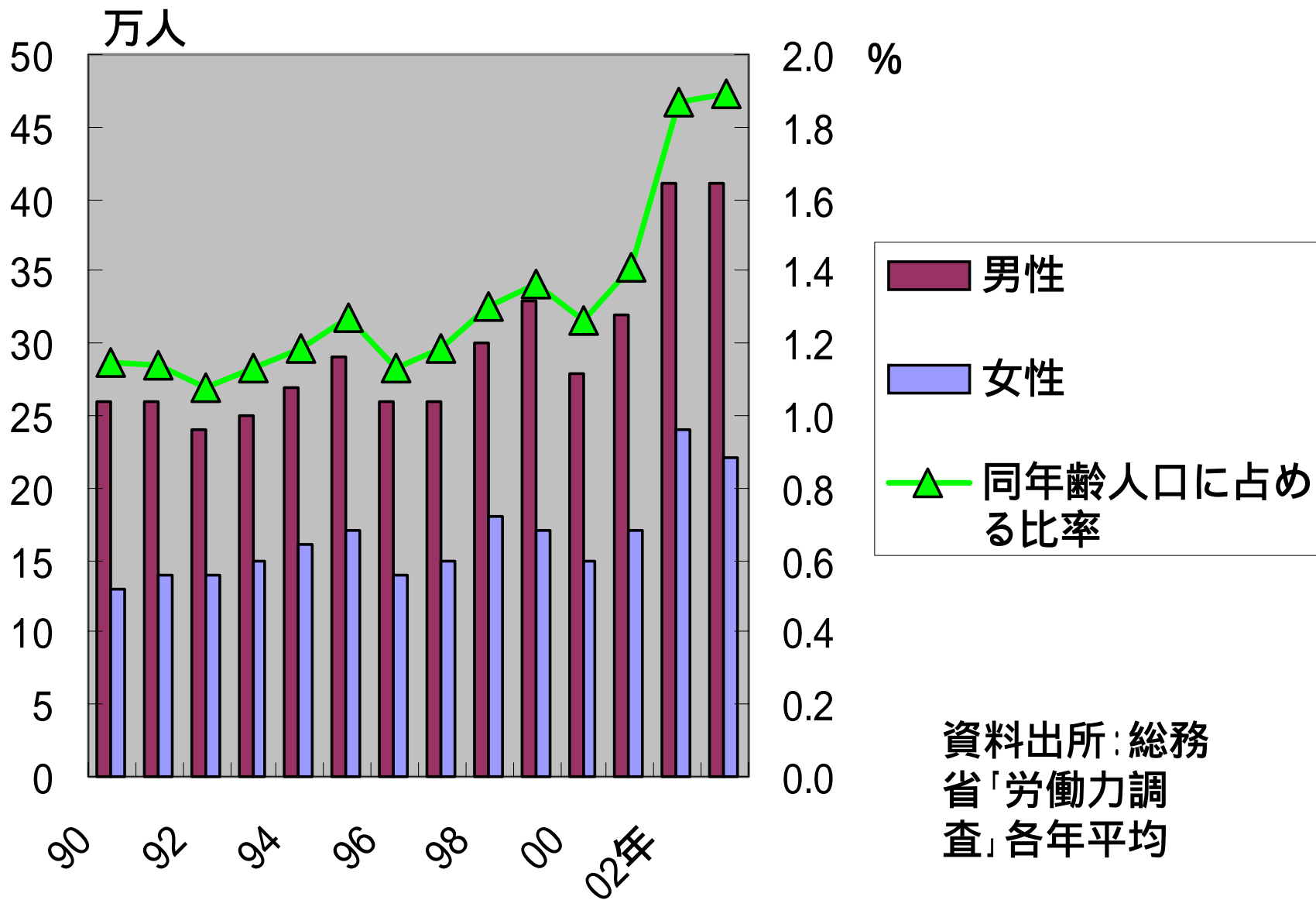
## 日本型ニート

社会活動に参加していないため、将来の社会的なコストになる可能性があり、現在の就業支援策では十分活性化できていない存在

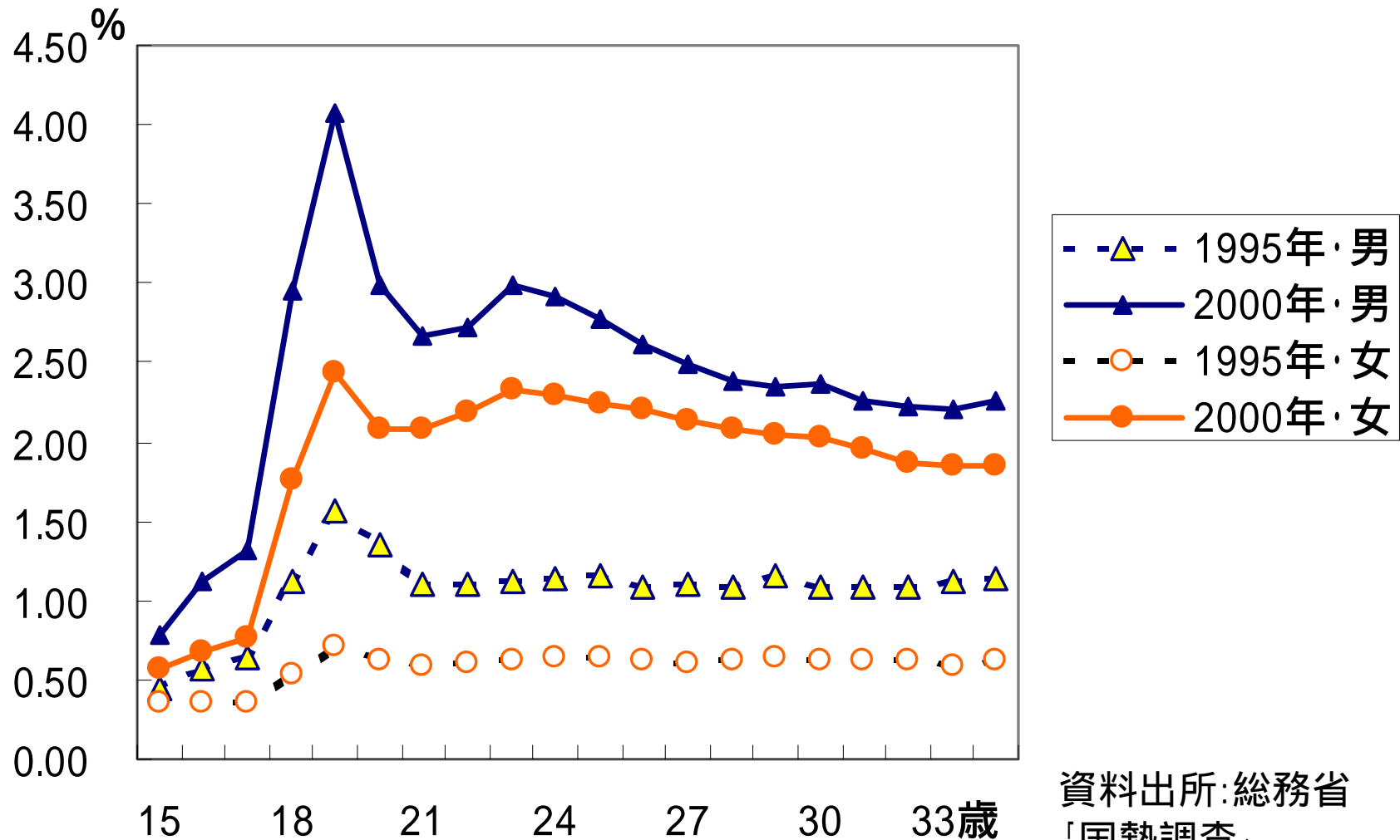
## 統計的に把握するための操作的定義

非労働力(仕事をしていないし、また、失業者として求職活動をしていない)のうち、主に通学でも、主に家事でもない者。  
政策対象としての年齢は15-34歳

# 非通学・非家事の非労働力(15-34歳):日本型ニート

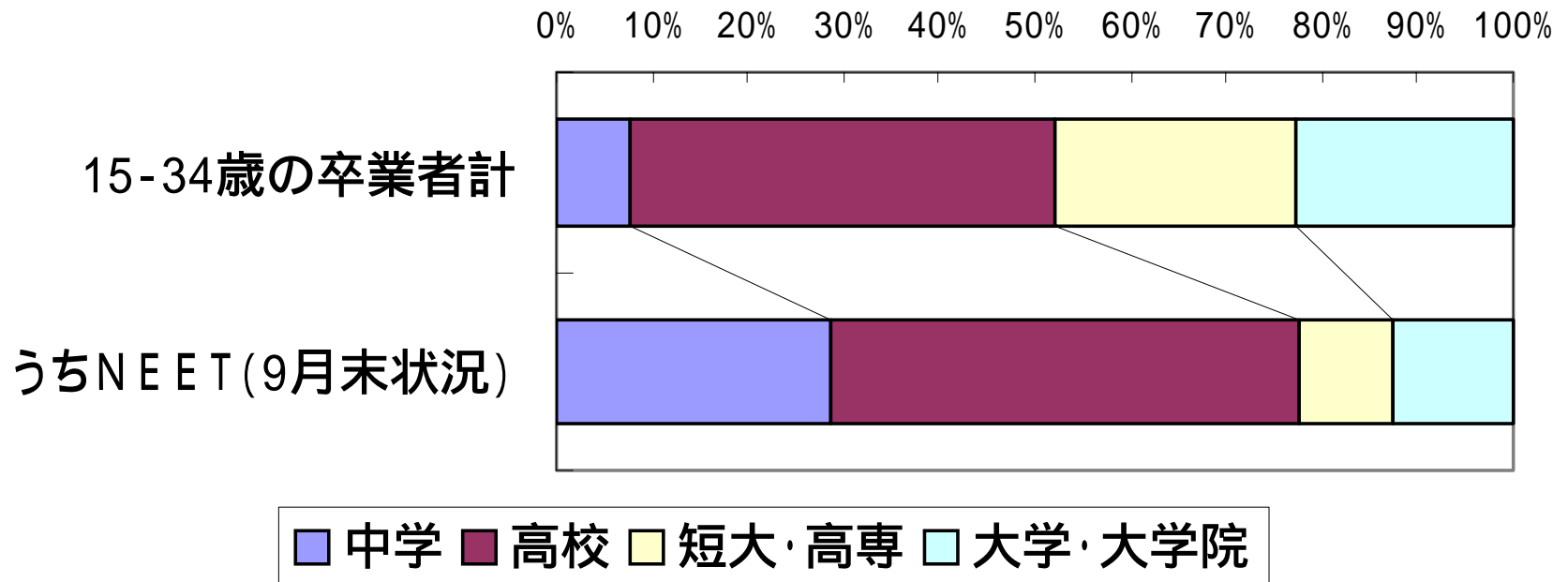


# 日本型ニートの年齢別人口に占める比



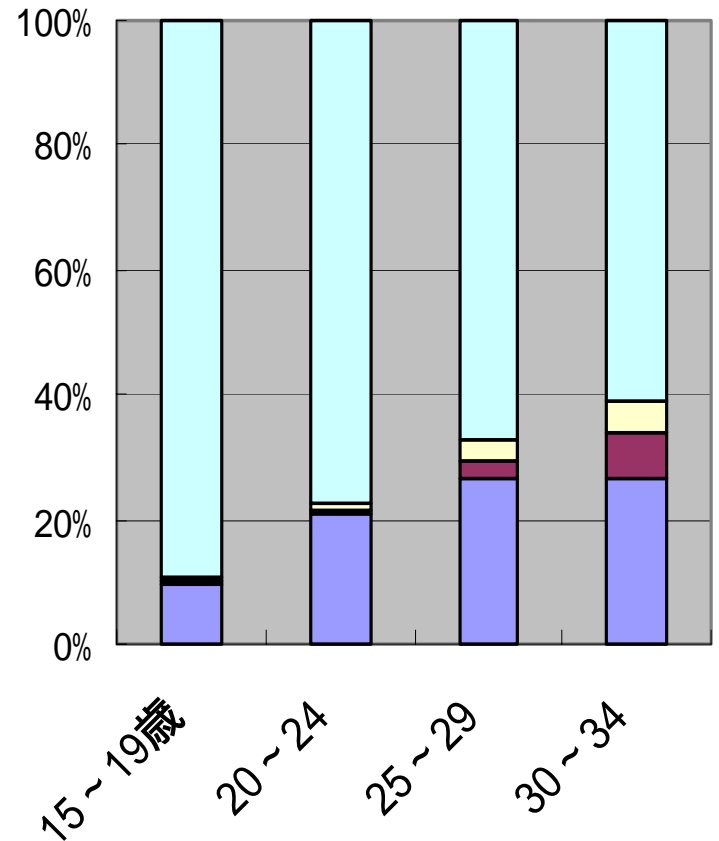
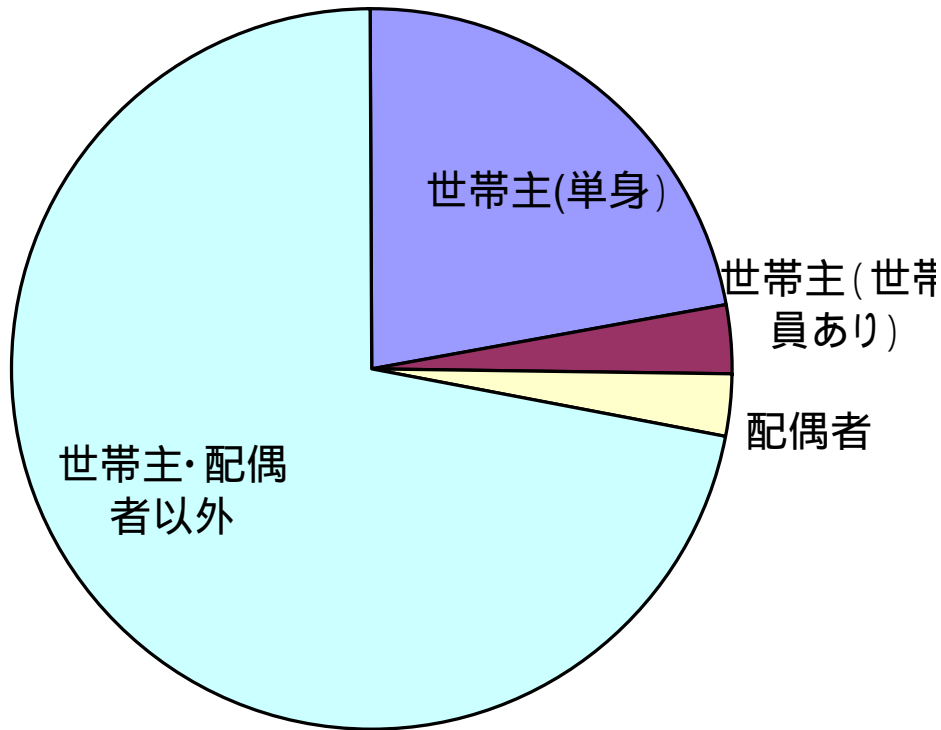
資料出所:総務省  
「国勢調査」

# 日本型ニートの学歴分布



注) NEETは9月末1週間の就業状況が、非通学・非家事の非労働力であった者

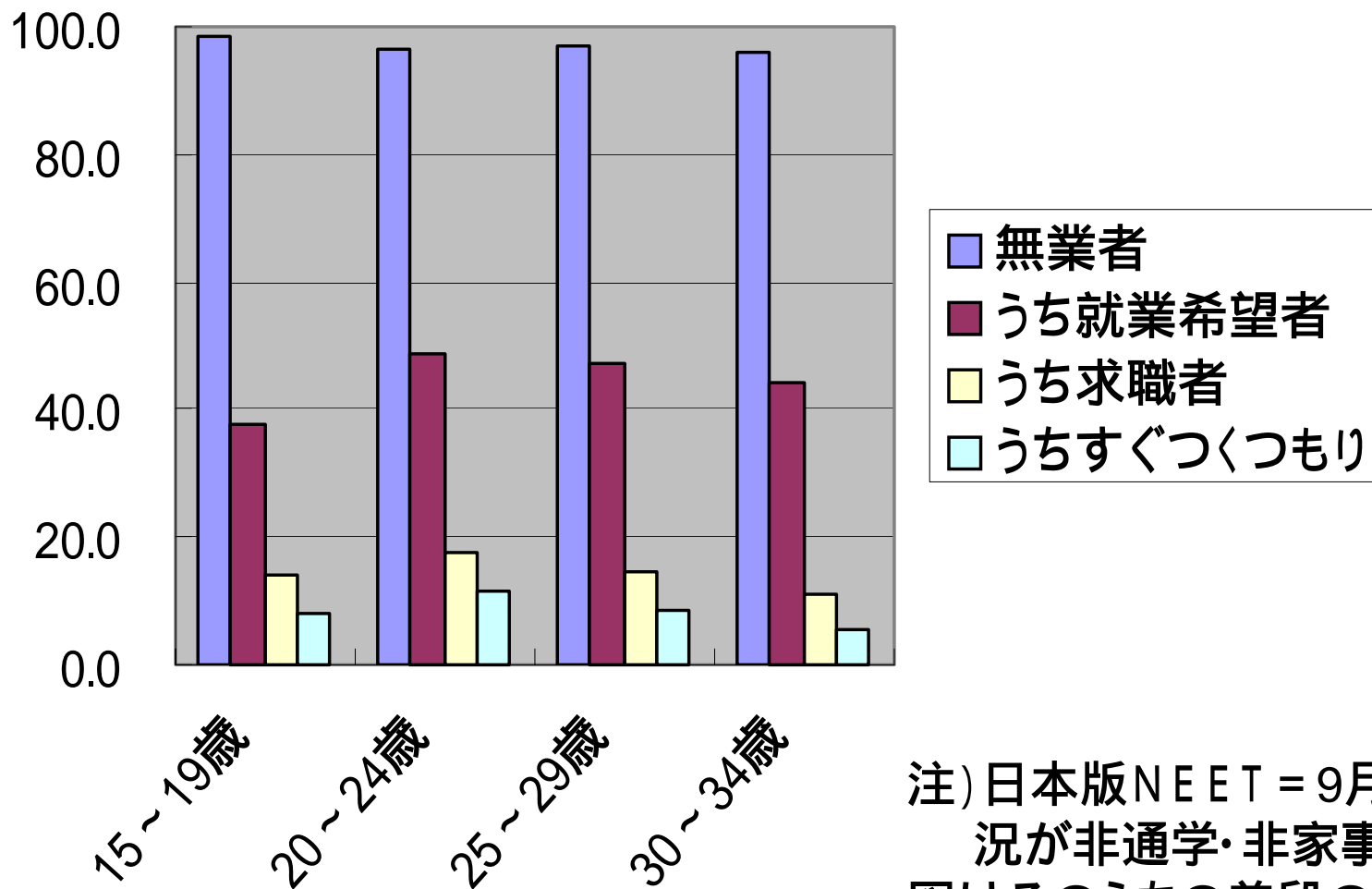
# 日本型ニートの家族状況



資料出所: 総務省「就業構造基本調査」2002年



# 日本型ニートの「就業希望」



注) 日本版NEET = 9月末1週間の状況が非通学・非家事の非労働力  
図はそのうちの普段の状況が無業、およびうち求職、うち、すぐ仕事に着くつもりの方の比率

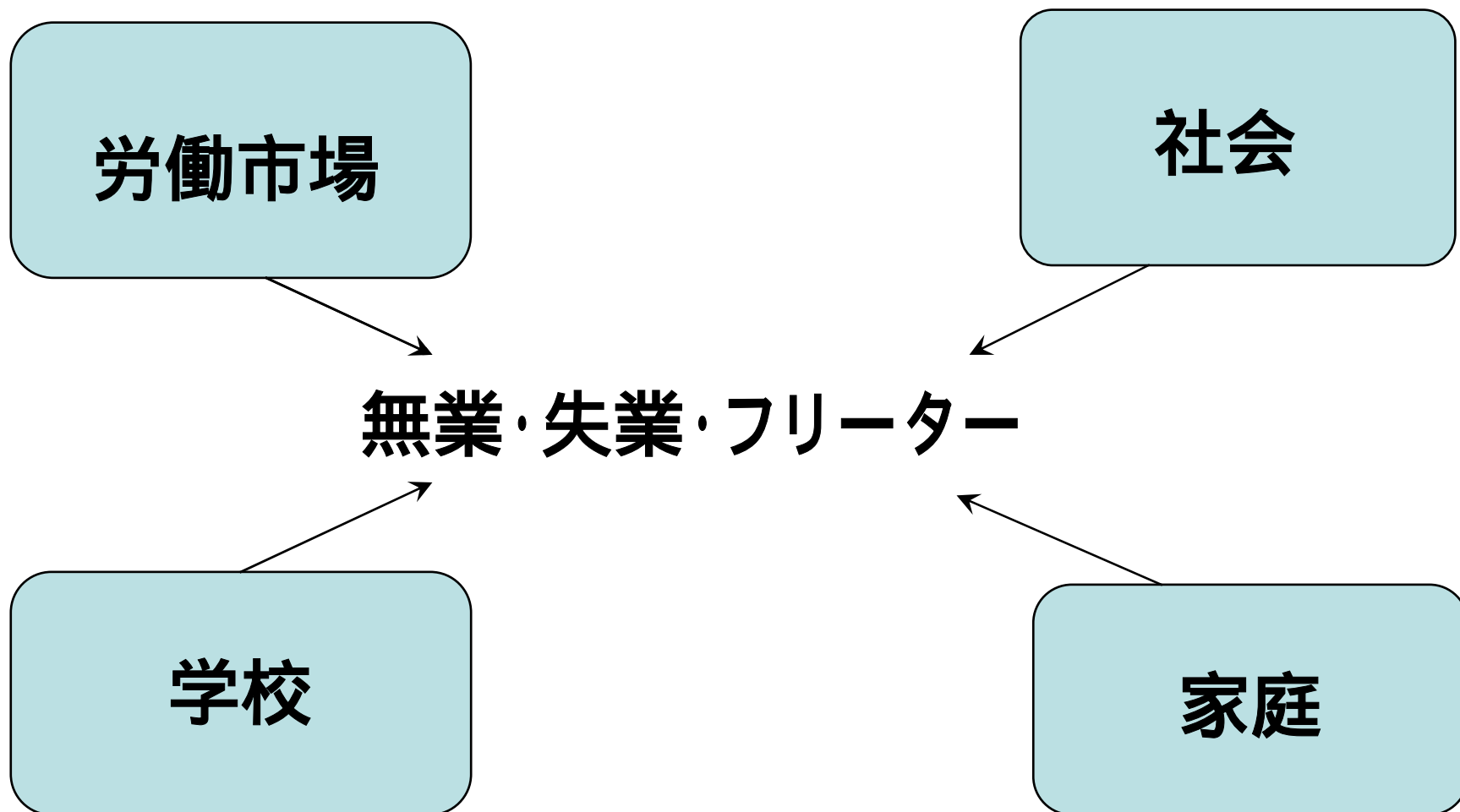
# 失業者とニート(うち就業希望のある者)の 希望する仕事の形態

	男性		女性	
	失業者	NEET	失業者	NEET
9月末1週間	仕事を探していた	その他	仕事を探していた	その他
ふだんの状況	求職活動あり	求職活動なし	求職活動あり	求職活動なし
<b>15～34歳計</b>	<b>684,000</b>	<b>119,900</b>	<b>481,000</b>	<b>77,500</b>
正規の職員・従業員	80.2	44.5	56.3	35.4
パート・アルバイト・契約社員	11.4	22.4	36.4	41.3
労働者派遣事業所の派遣社員	0.6	0.5	3.3	2.2
自営業	3.6	6.0	1.8	1.8
内職	0.0	0.8	0.4	2.7
その他	4.1	24.8	1.8	16.4

# 失業者とニート(うち就業希望のある者)の希望する職種

	男性		女性	
	失業者	NEET	失業者	NEET
9月末1週間	仕事を探していた	その他	仕事を探していた	その他
ふだんの状況	求職活動あり	求職活動なし	求職活動あり	求職活動なし
<b>15～34歳計</b>	<b>684,000</b>	<b>119,900</b>	<b>481,000</b>	<b>77,500</b>
製造・生産工程	10.7	4.8	4.3	6.6
建設・労務	5.9	3.2	0.3	0.5
運輸・通信職	5.2	2.5	0.2	0.3
営業・販売職	6.8	2.2	7.7	2.8
サービス職業	10.5	6.2	17.3	16.1
専門的・技術的職業	19.2	17.3	18.3	14.7
管理的職業	1.0	0.6	0.4	0.1
事務職	7.1	5.3	28.5	15.1
その他(保安職など)	4.0	6.3	1.7	5.5
仕事の種類にこだわっていない	29.3	50.8	21.3	37.4

# 職業への移行困難な若者の背景



# 労働市場

**変化**：高付加価値型労働需要

雇用慣行変化・多様化

景気後退（：特に地方経済）

**継続**：新卒一括採用・非典型の格差・

中途採用の限定・

年齢規範=やり直し不可

# 労働市場

変化:

継続:

就職先:

不本意就職

若手正社員の負担増加

**学校：**

**高校：キャリア教育の欠如**

**低位校：社会化の失敗・意欲形成  
の失敗**

**高等教育：**

**職業的レリバンスのなさ**

**キャリア教育の欠如**

**社会：**

**ソーシャルネットワーク：**

**仲間集団で凝縮し閉じる**

**離学により縮小し孤立化**

**職場と地域のネットワークの弱体化**

**ジェンダー：**

**キャリア期待ない女性**



# 家庭

厳しい家計(都市):

子どもへの無関心・低い期待水準・  
欧米型の社会的排除

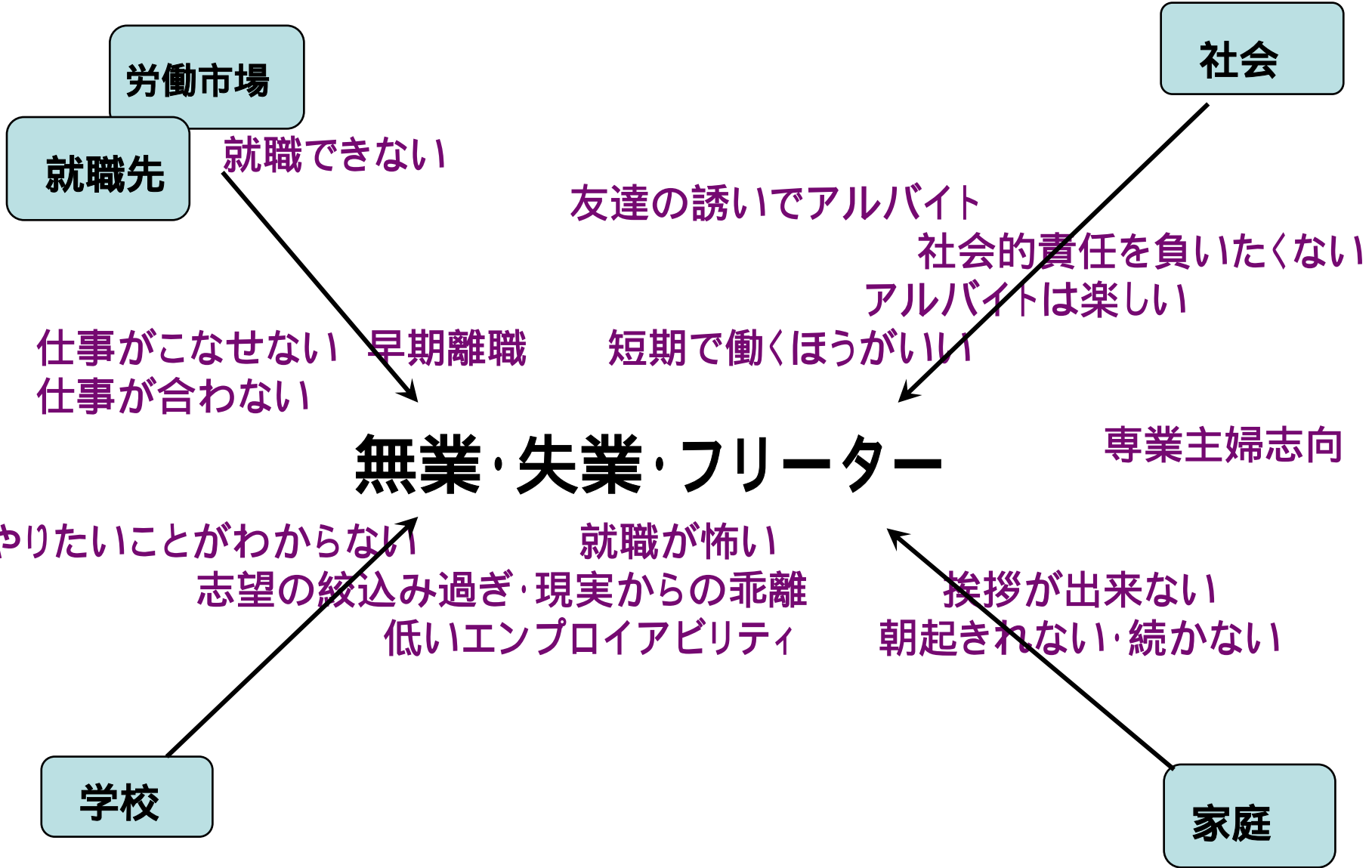
地方

少子化の中で地域移動の減少

高学歴家庭:教育成果への期待大

プレッシャー・自己実現への理解

パラサイト



## ● 刹那を生きる

中等教育卒や中退、学業不振・遅刻が多い。学校は友達に会う場所。親も非典型雇用が多く家計は豊かでない。高校時代からアルバイト遊ぶ金を稼ぐ。同世代同地域の友人との世界が居場所。職業的将来に期待は持っていない。朝起きれないなど、生活習慣レベルでの課題も抱えている。

## ● つながりを失う

早い学校段階で、友人関係のつまづきなど様々な理由から離学する。高等教育や就職後のこともある。ソーシャルネットワークが切れ、孤立化していくことが多く、職業への移行の前に、社会的関係の構築が課題となる。

## ● 立ちすくむ

高等教育卒業段階で、いったん就職活動はするがキャリアの方向付けが出来ず、限定的な就職活動で終わる。親の養育態度は教育達成に関心を持ち、自己実現志向にも理解があることが多い。暮らし向きは普通。大学進学時にも職業的自覚はなかった。就職できないことを親に申し訳ないと思っている。

## ● 自信を失う

学卒時に就職するが、早期に離職し無業やアルバイトで過ごしている。与えられた仕事を十分こなせず、仕事が合わないと離職した。クビに近い形あることも少なくない。労働条件も相対的に悪いケースが多い。精神的にも疲れている状態。次ぎの仕事はじっくり探したい。

# 政策的対応を考える

◆ 多様な時期に多面的な背景の下に無業化する若者

かつ、その背景は互いに影響しあう



全体的で、継続的な = ホリスティックな支援

# ホリスティックな支援

地域社会が主体となって、  
地元の若者を地域の教育・  
産業界との連携して一人  
前にしていく発想

高校まで  
キャリア教育  
エンプロイアビリティ向上

進路選択

高等教育  
キャリア教育  
職業的レリバンス

不登校

中途退学  
学卒無業

アルバイト  
就業体験  
ボランティア

家庭

支援機関  
(NPO)

支援機関  
(ジョブカフェ等)

産業界

その他行政  
機関  
(保健所・警察・  
民生委員…)

個人への継続的支援：中退などの個人情報  
は共有して総合対処

非活動的な若者への対応 = アウトリーチ：家庭にまで入り込む支援